

「訪問看護支援事業」三重県の取組

平成22年3月11日
三重県健康福祉部長寿社会室長 吉田

I 地域ケアの確立に向けて

- 三重県が目指している姿は、“2025年・2035年を見据えた地域ケアの確立”である。地域ケアの確立に向け、まずは、2007年12月、「みえ地域ケア体制整備構想」(地域ケアビジョン)を策定し、30年先を展望して、三重県の置かれた状況と今後の施策の方向性を関係者間で共有し、共に歩み始める標(しるべ)を提示した。そして、介護保険の第4期計画のスタートに併せ、「みえ高齢者元気・かがやきプラン」を改訂し、「みえ地域ケア体制整備構想」で示した三重県の未来予想図の実現に向けて、2009年度からの3年間に県として取り組む“3つの戦略”と“50の具体的行動”を定めた。
- 「みえ高齢者元気・かがやきプラン」は、介護保険事業支援計画・高齢者福祉計画であるが、「介護基盤整備」から「“地域ケア”の体制整備」へと展開が必要であると明記した保健・医療・介護・福祉の“総合計画”となっている。

3つの戦略と50の具体的行動

- これから高齢者が増えてくるが、活動的で生きがいに満ちた高齢者に地域・コミュニティを支えてもらうためには、高齢者が“元気”であることが必要。
- また、可能な限り住み慣れた自宅で暮らし続けたいという県民の願いを叶えるためには、「住まい」「見守り」「食事」「移動」「医療」「介護」といった安心を備えた“地域”であることが必要。
- さらに、これらのサービスを提供するためには、安定的な“人財”が必要。

